

1 対象となる幼児児童生徒
中学部1・3年生

2 教材を使用する活動
音楽

3 ねらい

①視覚的に示すことによって自分の達成度がわかるようにし、より意欲的に取り組むことができる。

②視覚的な音源を使用することで自分の担当がわかり、自主的に取り組むことができる。

教材の使い方	配慮点
<p>①ロングトーン練習</p>  <p>一定の高さの音を、</p> <ul style="list-style-type: none"> ①4拍伸ばす ②6拍伸ばす ③8拍伸ばす <p>と段階的に長さを伸ばしていき、ブレスコントロールの練習をすることで、発声量の増に繋がっていくようにする。</p> <p>②器楽合奏 「威風堂々」(動画)</p>  <p>・音源と楽譜が連動して動くことで、リズムの進行がわかるようにしている。</p>	<p>①一定の高さの声をできるだけ長く伸ばして発声をする練習を行なっている。その際に、子どもたち自身が、どこまで伸ばすことができているかわかるように、視覚的に表し、達成感や次への意欲を高めることへと繋げている。</p> <p>②生徒が自分で、自主的に練習ができるように、音源に合わせて楽譜が進行する画像の作成を行った。画像を流すことで、自分の楽器の準備ができたなら、曲に合わせて練習に取り組むことで、より自主的・意欲的に取り組むことができるように工夫を行なった。</p>